

トマトの低温障害果（通称ケロイド症果）発生にかかる品種間差異と対策

【1 ケロイド症果とは？】

- (1) 開花期頃に低温に遭遇すると、右の写真のような障害が発生します。
- (2) 品種によって発生しやすさに違いがあります。
- (3) ホルモン処理により発生が助長されます。



【2 成果の内容】

- (1) 3 程度の低温に 4 時間以上遭遇
品種によらずケロイド症果が発生。
- (2) 8 程度の低温でも・・・

県内で作付けが多い品種「桃太郎サニー」や「桃太郎ギフト」では、以前の主力品種である「桃太郎 8」よりも発生が多くみられます（図 1）。

- (3) ホルモン処理時期や処理濃度を変えても発生に大きな差は無いので、低温遭遇が予想される場合でも、ホルモン処理は通常どおり行います。



《 対策 》 県内主力品種「桃太郎サニー」や「桃太郎ギフト」を栽培する際には、補助暖房機を用意するなど突発的な低温に備え、最低気温 12℃を確保してください。

【3 留意事項】

- (1) 低温障害には、ケロイド症果だけでなく、10 程度でも発生するチャック果や窓あき果（品種間差あり、カルシウム剤の葉面散布で抑制されます）などもありますので、温度確保に留意してください。
- (2) 品種を選定する際は、ケロイド症果の発生程度だけでなく、収量性や病害抵抗性、産地の取り引き状況などを総合的に勘案するようにしてください。

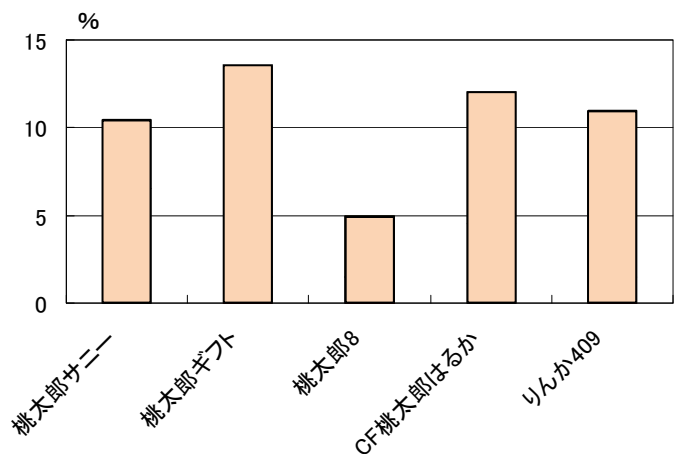


図 1 8 遭遇時ケロイド症果発生割合（2011、2021 平均）